

総合調査設計株式会社
Sogo-Chosa-Sekkei Co., Ltd. presents

大阪探検隊 Osaka City Expeditionary party

vol.008

[平野郷]

hirano-go



総合調査設計では、大阪を中心としたまちの魅力を発見、発掘することを目的として「大阪探検隊」なる活動を行っています。

今回は、大阪市内においても歴史色の強い町というイメージが持たれているのではないのでしょうか、平野の町を巡りました。そんな町への探索の期待とともに、降水確率 50%なのが、ちょっと気になります・・・。

集合は、平成 15 年 6 月 14 日の土曜日、JR 平野駅に 10 時 30 分。雨は大丈夫ですが、やや怪しい空模様。予定ルートは、平野駅の南をスタートし、平野環濠跡を中心とした歴史的資源を巡り、南下して流町、瓜破、そしてゴールの出戸駅へと向かうものですが・・・。

●平野北部歴史施設巡りルートマップ



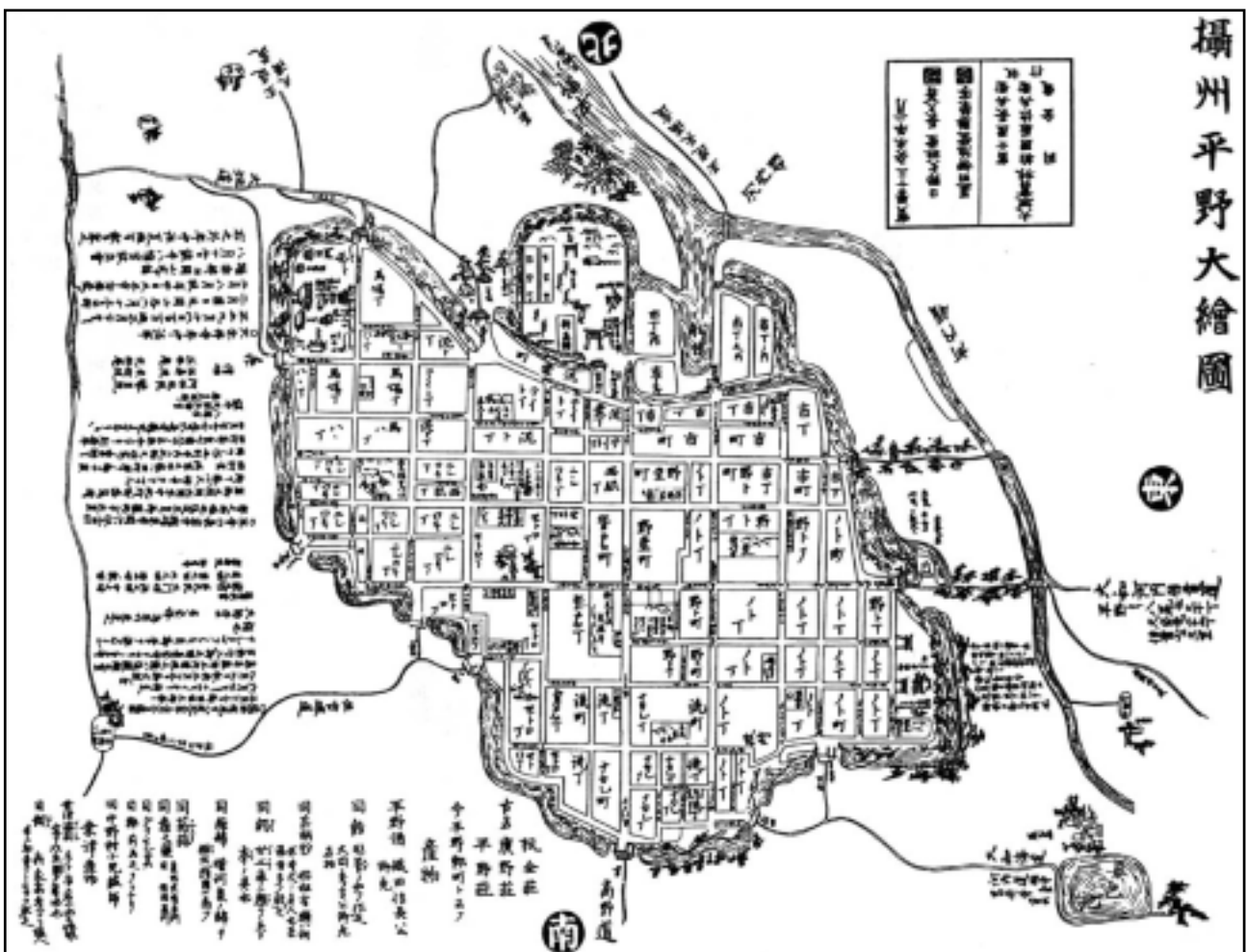
馬場口地蔵・ 大念仏寺



平野駅から南へ、国道 25 号を超えるとすぐに馬場口地蔵に迎えます。

ここでは、平野郷について説明されたサインがあります。

平野郷の動脈である環濠が作られた時代は不明とのことです、戦国時代に自衛と排水などを目的とされたようです。また、掘削した土を必要とされたとも考えられています。



はじめにお伝えすると、平野という地名は、平安初期に当地を領有していた坂上広野麿（さかのうえひろのまる）の広野がなまったものといわれているそうです。平野区民の皆さん知っていますか？

環濠には 13 つの門が存在し、街道に通じていたようで、各門には地蔵堂が置かれ、今でもその名残を見ることができます。

馬場口地蔵の前に、大阪府下でも有数の木造建築という大念仏寺が見えます。

大念仏寺は、それぞれのご利益を挙げてそれらを巡っていく、なにわ「七幸めぐり」の一つでもあり、そのご利益は諸芸上達とのことです。

なにわ「七幸めぐり」で有名なのは、商売繁盛でお馴染みの今宮戎神社ですが、大念仏寺は知りませんでした。



半袖でもやや暑いくらいだったのですが、本堂に入るとひんやりとしていて、とても気持ちの良い空間です。



泥堂口地蔵

平野郷 13 口地蔵堂の 1 つ、泥堂口地蔵を拝見し杭全神社へ向かいます。

神社周辺の道路は、脱色アスファルトで舗装され、所々に街道を示す石碑も見られるなど歴史的空間を演出しています。



杭全神社への途中、長堀通の末吉橋を架けたと言い伝えられている平野の豪商、末吉家のお墓を参りました。ちなみに末吉橋は、町で維持されていた町橋だそうです。

末吉橋の詳細は、(財)大阪市都市工学情報センターさんのホームページでご紹介されています。

(写真は 99 年の末吉橋)

(http://www.osakacity.or.jp/kikaku/gallery/bridge/bridge/b1_sueyoshibashi.htm)

杭全神社



杭全神社は、平野の語源である坂上広野麿の子、当道（とうどう）が祭神したのが最初とされており、本殿は三殿からなります。

第一殿は春日大社旧本殿の移築で、第二・三殿は室町時代のもので重要文化財です。



境内には、大阪府天然記念物に指定されている樹齢 600 年以上のクスノキ、平野郷の文芸の中心的存在であった連歌所があります。

平野環郷跡



杭全神社の東には平野環濠跡があり、自治都市として栄えた平野の面影をしのぶことができます。



環濠にまつわる話として、平野の富商達は、大坂城下町整備の一環として秀吉により天王寺に移住させられ、さらには濠も埋められます。そうして自治都市平野は、衰退に向かうことになったそうです。

川にまつわる話として、水都大阪にもこうした歴史があることを実感しました。

坂上広野磨墓

先にも書きましたが、「平野」の語源である坂上広野磨のお墓に向かいます。

そのお墓は、公園の一角に、ひっそりと佇み、子供達を見守っているようです。



河骨池口地蔵・ 含翠堂跡（がんすいどうあと）



江戸時代の平野は、末吉家、土橋家、道頓堀を開削した成安家をはじめ七名家が分割して治めていたそうです。

河骨池口地蔵、学塾活動の中心となっていた含翠堂（がんすいどう）の跡地、坂上屋敷跡を經由し、長宝寺へ。



坂上屋敷跡

平野地名の由来である、坂上広野麿の屋敷跡地。住居は、明治末まであったそうですが、今は石碑のみがその時代を継承するものとなっています。



長宝寺



長宝寺は、桓武天皇妃であった慈心大姉により創建されました。

このお寺は、重要文化財の銅鐘を有するとともに、「閻魔さんの寺」としても知られているそうです。

境内には、閻魔さんのお話が記されたサインがあります。

プロムナード平野（緑の電車の道）



商店街を通り、南海平野線平野駅の跡地に到着。

南海平野線は昭和 55 年に廃止された路線で、跡地はプロムナード平野として遊歩道整備がされ、随所に鉄道跡地としての面影を感じさせてくれます。

レールで作られた緑化パーゴラ。信号が併設された照明灯。枕木をあしらったデザインの舗装。そして当時の平野駅舎は、八角形のモダンな建物で通称“六角堂”として親しまれていたそうですが、その駅舎をモチーフとしたシェルターが整備され、時代風景を継承しています。

昭和 58 年 4 月に完成した遊歩道は、二十数年の時間が経っていますが、管理が行き届きとても心地良い空間となっています。



整備にたずさわった方にお聞きすると、地域の管理体制がしっかりとしているとのことでした。

平野線に関わるホームページも多く、市民にとって愛着のある場所だと感じます。

全興寺



商店街に入り、目指すわ全興寺。ここは、行く前から面白いところだと聞いていたのですが、なるほど、納得です。ニックネームをつけるなら「遊園寺」でしょうか。

はじめに目にするのが駄菓子屋博物館。懐かしい手打ちのパチンコ台や、駄菓子などが陳列されています。

進むと「ほとけ」と「地獄」への分岐をしるした鬼が立っています。まずは地獄へ。地獄堂には、幾つかの質問に答え地獄行きが決められます。(人によっては仏の国ですが)そしてCGを駆使した地獄の説明を閻魔様より受けることになります。

ここで突然の大雨。閻魔様の大事なお話を誰か適当に流したのでは！あわてて地下の「ほとけの国」へ。



四国八十八ヶ所霊場の砂を詰めた手摺をつたいながら地下に入ると、床に光るマンダラ、周りに水盤。ああ癒される・・・。



平野郷樋尻口門跡・ 平野の黄金水

外は大雨。商店街を抜け、平野郷樋尻口門跡へ急ぎます。樋尻口門跡は、先に述べた平野郷 13 の出入り口の 1 つで、八尾久宝寺につながる出口だったそうです。



近接して平野公園があり、そこには平野の命の水であった黄金水跡地が碑とともにあります。



平野は土地が低湿で、飲料に合わない井戸が多かったそうですが、その中で、この黄金水は、良質の水が湧き出ていると飲用にされていたそうです。

がんこ平野屋敷（辻本家）

雨はますます激しくなり、流町や瓜破方面の探索をあきらめることになりました。急きょ平野で代々豪商として栄えた辻元家へ。



そうです、通称？「がんこ平野郷屋敷」です。重厚な門構えを抜けると、奥座敷とともに、様々な歴史資源を収容した土蔵、この時期アジサイが美しい庭園などが見られます。

雨も止みそうになく、ちょうどお昼過ぎだったので、今回の探索はここで終了になりました。

雨にぬれたズボンが気持ち悪いですが、奥座敷から眺める雨は、何か歴史をより強調するような、そんな効果をもたらしてしまいました。皆さん、お疲れ様でした。

今回もご指導いただきました先生に大変感謝をする想いです。ありがとうございました。

